

皆様方にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平成29年11月30日（木）から12月2日（土）の3日間にわたり、金沢大学宝町地区キャンパスにおいて、第4回金沢大学子どものこころサミットを開催する運びとなりました。平成26年第3回サミットから、約3年ぶりの開催となります。

この間、文部科学省脳科学研究戦略推進プログラムの一環である「神経内分泌仮説に基づく知能障害を有する自閉症スペクトラム障害の診断と治療の展開研究」（リーダー：東田陽博教授）が平成27年度に終了し、オキシトシンの自閉スペクトラム症への効果を検証した医師主導臨床試験の結果を公表するに至りました。この研究は全国的な大規模臨床試験に受け継がれています。平成25年に文部科学省の革新的イノベーション創出プログラム（The Center of Innovation；COI STREAM）に採用された大型プロジェクトは後半に入り、順調に進行しています。金沢大学は、株式会社パナソニックと大阪大学が中心となるプログラム「人間力活性化によるスーパー日本人の育成と産業競争力増進/豊かな社会の構築」のサテライト研究拠点として、「脳の個性を生かした子どもの健やかなこころの育成：特異から得意へのパラダイムシフト」（リーダー：三邊教授）の課題のもと、幼少期から脳の個性を考慮し、人間力を伸ばすシステムを開発すること、並びに日本で唯一の幼児用脳磁図計（脳センシング技術）を活用し、脳科学的観点から、子どもの健やかなこころの育成を実現することに邁進しています。

上記の2つのプロジェクトの成果を報告するシンポジウムに加え、今回のサミットでは、「ロボット技術が切り拓く新しい未来」と「子どもみんなシンポジウム2017 in 金沢」というシンポジウムを企画いたしました。「ロボット技術が切り拓く新しい未来」には国内外の研究者が集まり、ロボットによる療育・支援の最先端の話題が討議される予定です。また、「子どもみんなシンポジウム2017 in 金沢」は、文部科学省委託事業「子どもみんなプロジェクト」の活動の一環です。金沢大学も含む全国10大学および連携する教育委員会の子どものこころの諸問題への取り組みを公開討論する場です。私どもの立場からすれば、大学の社会貢献という意味において極めて重要な活動です。

子どものこころの発達研究センターは、設立以来10年が経過しました。本年度半ばより、基礎・橋渡し研究部門、臨床・社会実装研究部門、文理融合・地域支援部門の3部門に組織改変され、新たな時代に踏み出そうとしています。橋渡し研究はトランスレーショナル・リサーチとも呼ばれ、基礎研究で得られた成果を新しい医療技術・医薬品として確立するためのものです。社会実装は、新たな知見や技術が、製品化され市場に普及する、あるいは行政サービスに反映されることを意味します。今回の集会は、このような方向性で行われている研究の成果発表が中心です。今後このようなミッションを遂行するあたり、研究の独創性に加えて、社会のニーズに耳を傾けることが大切であることは言うまでもありません。

今回のサミットが一方的な研究成果報告に留まることなく、参加される市民、関係機関の皆様の忌憚のないご意見、ご助言を賜る機会にできましたら幸いに存じます。

平成29年10月吉日

第4回金沢大学子どものこころサミット実行委員代表 横山 茂